

2020年7月27日

## ニューノーマル時代における働き方改革 JTB ワークーション

JTBは、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う働き方の急激な環境変化に対応し、ニューノーマル時代のワークーション(\*1)を提案します。

2019年に働き方改革関連法が施行され、ワーク・ライフ・バランスを見直し多様で柔軟な働き方が推奨されてきました。年5日間の年次有給休暇の義務づけやフレックスタイムの導入など、企業は様々な取り組みを行って参りました。そして、今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響によるニューノーマル時代の働き方ガイドラインを踏まえると、テレワーク(\*2)は更に浸透し、「ワークーション」などの新たな働き方(ワークスタイル)は基本的な勤務形態として定着していく事が期待されています。

先般内閣府より、新型コロナウイルス感染症における様々な対応・取組の支援として、新しい生活様式を踏まえた地域経済活性化等に関する事業例(地方創生臨時交付金の活用が可能な事業)、「都市と地域の両方で働く・楽しむライフスタイルの開拓」が発信されました。

- ・ ワークーションや人材マッチング等の新たな地域移住等の需要の取り込み支援
- ・ テレワークの導入、テレワーク用サテライトオフィスの整備支援

また環境省においても、国立・国定公園、温泉地でのワークーション推進を支援し、新型コロナウイルスの感染拡大により甚大な影響を受けている地域経済の活性化を目的とした補助事業の公募が実施されるなど、各省庁がニューノーマル時代の新たな働き方を支援する動きを見せております。

JTBではこれらの環境を踏まえ、弊社と連携する多様なステークホルダー(図1)との接点を活かし、ワークーション実施企業の課題や企業ニーズを地域(ワークーション拠点)と共有し、ワークーションに適応したコンテンツ開発や企業と地域のマッチングなど、企業と従業員にとって有益な関係性の構築と、地域における関係人口の増加に貢献した、ニューノーマル時代の新たな働き方変化に対応した持続可能なワークーションを提案します。

### ■JTBの具体的な取り組み

- (1)企業及び従業員のニーズを踏まえた地域(ワークーション拠点)とのマッチング。
- (2)自治体・地域及び観光事業者と連携したワークーション関連コンテンツ開発。
- (3)各地ワークーション型商品(個人向け・法人向け)の開発と販売。

図 1:JT Bとステークホルダー

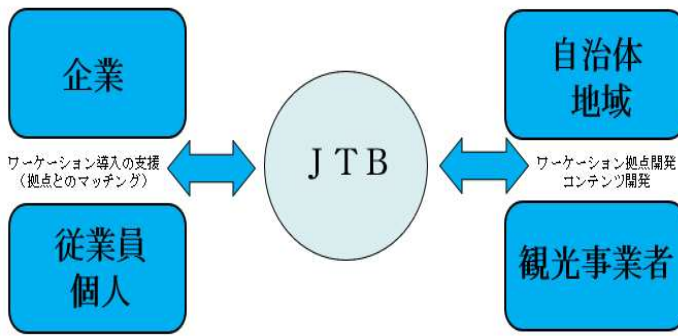


図 2:ワーケーションの区分

区分	利用者	主な利用イメージ
個人向け	従業員又は個人	休暇活用型、テレワーク型
法人向け	企業又は団体・グループ	オフサイト会議・研修型

■ワーケーション区分について（図 2）

<個人向けワーケーション>

休暇活用型(主は休暇):有給休暇中の旅行先で休暇の合間に半日又は数日働くこと。

テレワーク型(主は勤務):リゾート地やサテライトオフィスなどで連続して勤務すること。

<法人向けワーケーション>

オフサイト会議・研修型:リゾート地や温泉地などで実施するミーティングや研修などのグループワーク

一方でワーケーションを導入する企業においては、現行の就業規則(フレックスタイム制、裁量労働制、時間外労働、労災、通災など)や経費処理の取扱方(交通費、滞在費など)などが、ワーケーション推進における課題となっています。今後、法整備や企業独自のガイドラインの策定など制度改定が進む事で、日本におけるワーケーションが更に浸透するものと期待しております。

\*1:「Work(仕事)」と「Vacation(休暇)」を組み合わせた造語で、リゾート地や地方等の普段の職場とは

異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組みのこと

\*2:オフィスから離れた場所で働くこと

本事業に関するお問い合わせ

<https://www.jtbbwt.com/business/trend/detail/id=1385>

《ワーケーションにおける効果と課題》について、

山梨大学大学院 生命環境学域・社会科学系長 教授

田中 敦 様

ワーケーションは単に「仕事」と「休暇」を混合させる、という現象面での理解にとどめず、実施する効果やその先にある「未来」に着目することが重要である。急速なテレワーク環境の普及や社員のリテラシーの向上は新しい働き方やビジネスチャンスを創り出し、地域の垣根を越えた関係人口の増加にも大きく寄与していく可能性が高い。他方、あまりに急速な環境の変化に対応しきれていない企業や個人も多く、それぞれの事情やニーズあった運用には、経験豊富なプロの支援も有用であろう。働く人一人ひとりの自律的で多様な幸せと、企業や地域の価値の向上を実現することができる、持続可能なワーケーションの推進が強く望まれる。

◆JTBがご提案するワーケーション(例)

(1)長期滞在型リゾートワーケーション カヌチャバイホテル&ヴィラズ(沖縄県:名護市)

リゾートホテルを活用した新たな働き方の提案。非日常的な空間が広がる場所で仕事を行うことは、ストレスから解放されて業務効率の向上が期待できます。加えて仕事の時間以外にゴルフや海でのアクティビティなど様々な過ごし方ができることも魅力です。



(2)WORK×ation Site 南紀白浜 (和歌山県:白浜町)

南紀白浜のワーケーションスペース(三菱地所)。60㎡(16名収容)の1室を企業向けに1日単位でお貸し出しいたします。南紀白浜空港から車で約5分、南紀白浜ICから車で約10分の好立地です。繁華街やビーチにも近いいため様々なプランを組み合わせることができます。三菱地所は、まもなく2カ所目のワーケーション施設を他エリアにてオープン予定です。



(3)JTB×スノーピークビジネスソリューションズ(神奈川県:観音崎)

スノーピークのキャンプ用品を使ったアウトドアワークスタイルのご提案です。組織活性化を支援する「スノーピークビジネスソリューションズ」と、都心から約1時間、三浦半島の南東に位置する「観音崎京急ホテル」との協業により、非日常感溢れるCAMPING OFFICEの設営を実現しました。



■報道関係の方からのお問い合わせ  
JTB 広報室 03-5796-5833